

三浦半島南西部沿岸域の魚類－Ⅲ

岡 部 久・工 藤 孝 浩

Kyu OKABE & Takahiro KUDO: Fish Fauna in the
Coast of Southwest Area of the Miura
Peninsula Ⅲ

はじめに

著者らは、相模湾の魚類相を明らかにすることを目的として、城ヶ島を中心とした三浦半島南西部沿岸域で、主にスノーケリングによる魚類の目視観察調査を行っている。本報では、前報に引き続き行っている調査によって新たに確認された10種と、前々回の報告で誤同定のあった1種について追加報告する。

調査方法

今回は、これまでの採集地に加えて横須賀市長井地

先を調査した。調査はこれまでの方法に準じて行ったが(工藤他,1992)、これに加えて城ヶ島の水産試験場地先においてひと月に1回の灯火採集を行っている。これは、500Wの水中灯を夜間に2時間点灯し、集まった動物をすくい採るものである。この方法による採集結果は他の機会に報告するが、これまでの我々の調査によって確認されていない魚種についてのみ今回報告する。

結 果

目録で使用した種の番号(354~362)は、前報(工藤他,1992)で記録した最後の番号(353)に追録し、標本の一部は横須賀市自然博物館魚類資料(YCM-P)として登録保管した。本報告の標本に関する記述は、種ごとに採集日、採集場所、採集方法、登録番号、丸括弧内に個体数および標本長範囲(SL:標準体長、またはTL:全長)の順に記した。

(125) ムスジコショウダイ

Plectorhinchus orientalis

1990年10月20日、浜諸磯地先水深7mの岩礁帯からスキューバ潜水により採集された。YCM-P28746(1,59.5mmSL)図2-1。

標本個体は、工藤・岡部(1991)で125アジアコショウダイとして報告したが、本種として再同定された。コショウダイ属魚類のうち、成魚が暗色縦帯をもつグループは、成長に伴う斑紋変化が激しく、学名・和名ともに混乱していたが、瀬能・島田(1991)により本種を含む3種の稚魚期から成魚期にかけての斑紋変化が明らかにされ、分類学的整理がなされた。本種の体長30~90mmのステージは、アジアコショウダイ *P.*

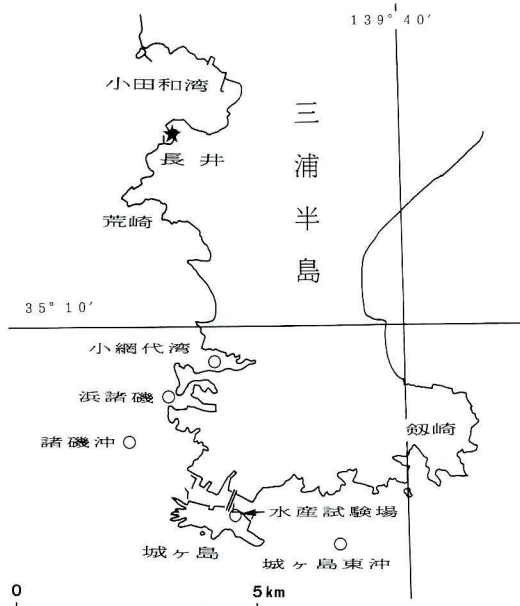


図1. 今回報告する魚が採集された地点。
○: 従来からの採集地点、
★: 今回追加した採集地点

picus に類似するが、胸鰭が黒い（淡色）、尾鰭上後縁に黒色帯があり、後縁に白色部があること（尾鰭全体が黒色で、上後縁から後縁にかけて白色）、各黒色部の縁は橙色であること（縁どりが無い）などの特徴により区別できる（瀬能・島田, 1991）。

354 イセゴイ *Megalops cyprinoides*

1992年 8月24日、水産試験場地先の灯火採集によって得られた。（1,32.0mmTL）図2-2。

標本個体は、次のスズハモと同日に灯火採集によって採集されたレプトセファルス幼生であるが、尾鰭が大きく叉入すること、臀鰭の始部が背鰭のほぼ中央にあることなどからイセゴイと同定した。

355 スズハモ *Muraenesox bagio*

1992年 8月24日、水産試験場地先の灯火採集によって得られた。（1,59.0mmTL）図2-3。

標本個体は、背鰭始部が体の前方にあること、体正中線上の筋隔にみられる黒色素胞などからハモ属のレプトセファルス幼生で、同属のハモとは筋節数が少ないことから識別した。

356 ホシノエソ *Synodus hoshinonis*

1992年 3月 4日、城ヶ島東沖の水深40mから刺網で採集。YCM-P27249（1,216.0mmSL）図2-4。本種は南日本に分布し、相模湾周辺では伊豆半島東岸や伊豆大島北部の水深5~20mの岩礁やその周辺の砂地に生息しているが、神奈川県沿岸からの採集記録はない。標本個体は鰓蓋上部に1黒色斑があること、側線鱗数が55であることなどからホシノエソと同定した。

357 イトヒキヨウジ *Trachyrhamphus longirostoris*

1991年11月26日、水産試験場地先の灯火採集によって得られた。YCM-P28692（1, 68.0mmTL）図2-5。

本種のわが国からの採集報告は少ないが、DAWSON et al (1978) によって相模湾から3個体の採集報告がある。永澤 (1990) によって日本海側の島根~山口県沖からも2個体の採集報告があるがいずれも尾部に特徴的な糸状突起を持つ稚魚であった。標本個体も顕著な糸状突起の伸長がみられる稚魚であり、分布の中心と見られる熱帯~亜熱帯の海域からの黒潮による輸送があったものと思われる。

358 ナガハナダイ *Pseudanthias elongatus*

1992年 8月27日、三浦市諸磯沖の水深20mからサビキ釣りによって採集。YCM-P27122（1, 97.4mmSL）図2-6。

本種は、琉球列島等の珊瑚礁域を除く南日本に分布する。相模湾周辺では、伊豆半島東岸や伊豆大島北部の水深30~50m以深の岩礁域に周年定住していると考えられるが（伊豆海洋アカデミー 瀬能 宏博士、グローバルスポーツクラブ、西谷香奈氏私信）、やや深く潮通しが良い岩礁に生息しているため、漁業によって漁獲されることはまれで、スキューバダイビングによって目視観察されている。三浦半島沿岸域では、本種の生息水深帯と考えられる水深30mを越える大深度の潜水調査が行われていないため、分布が確認されていない。標本個体は背鰭第3棘が糸状に伸長しており、生時体色は体の前半部が赤く、後半部が桃色であるなどの雄の特徴が現れていた。

359 オオグチイシチビキ *Aphareus rutilans*

1992年 8月27日、ナガハナダイとともに三浦市諸磯沖水深20mからサビキ釣りによって採集。YCM-P27121（3,84.7~93.0mmSL）図3-1。

本種は南日本に分布し、水深100m以深から釣獲されるとされている。相模湾周辺においては、諸磯定置網で体長261mmの未成魚が漁獲されており（山田, 1991）、幼魚・未成魚の生息水深は比較的浅いと考えられる。

360 アオタナゴ *Ditrema viride*

1992年 8月13日、小網代湾奥部のアマモ場水深2m。約150mmTL。

本種は青森県以南の日本各地に分布する。三浦半島周辺では、東京湾側に広く分布し、相模湾側では小田和湾をはじめとする小湾のアマモ場に不連続に分布すると考えられる。三浦半島沿岸においては比較的普通の種でありながら従来の魚類相調査では記録されておらず、近縁種ウミタナゴ *D.temmincki* と混同されているものと思われる。

361 ルリスズメダイ *Chrysiptera cyanea*

1992年11月14日、横須賀市長井、新宿の港の岸壁水深1mから採集。YCM-P27231（1, 46.6mmTL）図3-2。

本種は、和歌山県以南の南日本に分布するとされており、相模湾からは初記録である。この個体は10月中旬に発見されて以来、約1ヶ月にわたって岸壁に開いた狭い穴に定着していた。標本個体は背鰭軟条後半部基底に瞳孔大の黒色斑を有しているが、この黒色斑は雌に多くでる特徴である（ALLEN, 1975）。

362 クラゲウオ *Psenes arafurensis*

1992年 6月25日、水産試験場地先の灯火採集によっ

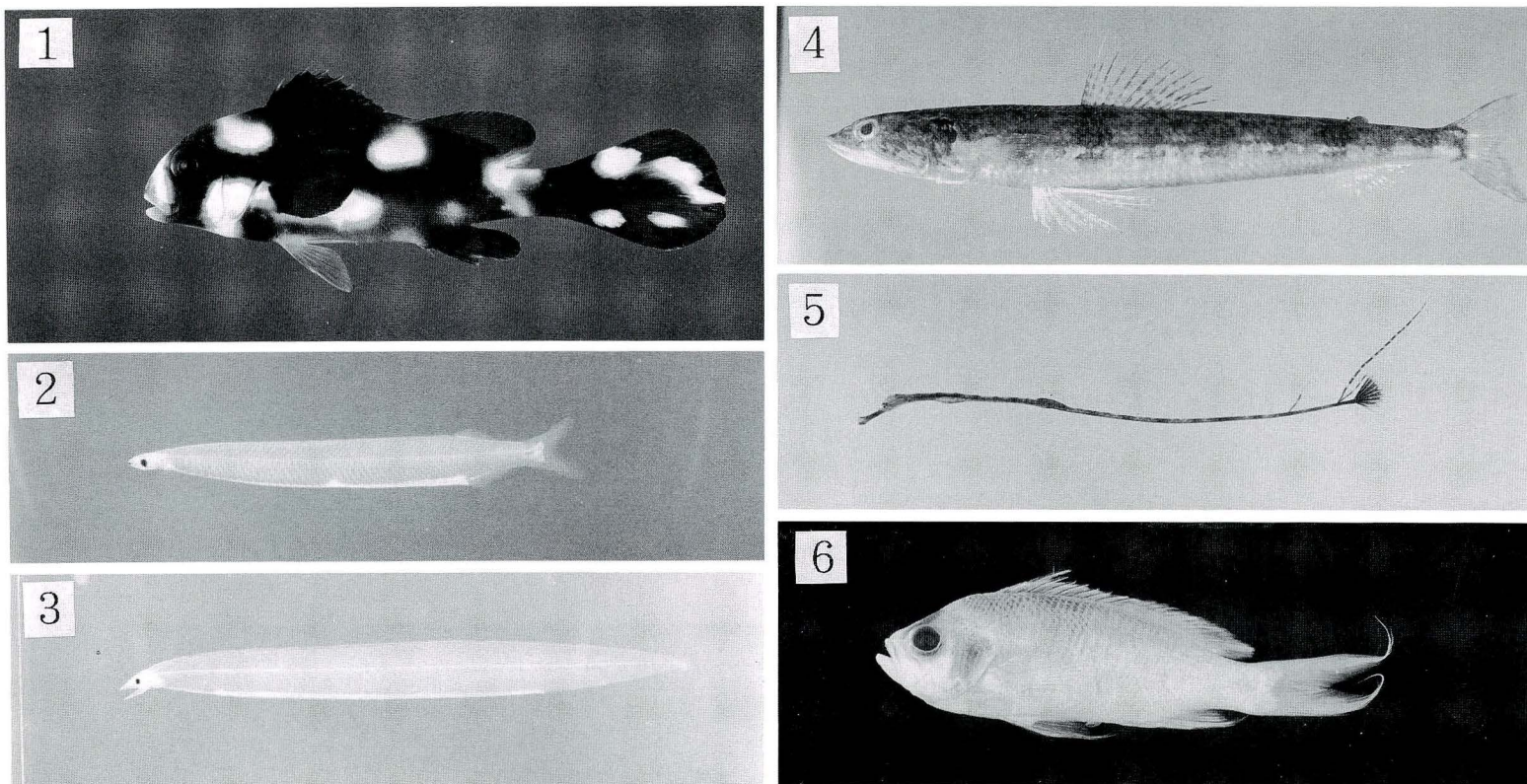


図2. 1 ムスジコショウダイ *Plectorhinchus orientalis*, YCM-P 28746, 体長59.5mm.
 2 イセゴイ *Megalops cyprinoides*, 全長32.0mm.
 3 スズハモ *Muraenesox bagio*, 全長59.0mm.
 4 ホシノエソ *Synodus hoshinonis*, YCM-P 27249, 体長216.0mm.
 5 イトヒキヨウジ *Trachyrhamphus longirostris*, YCM-P 28692, 全長68.0mm.
 6 ナガハナダイ *Pseudanthias elongatus*, YCM-P 28746, 体長97.4mm.

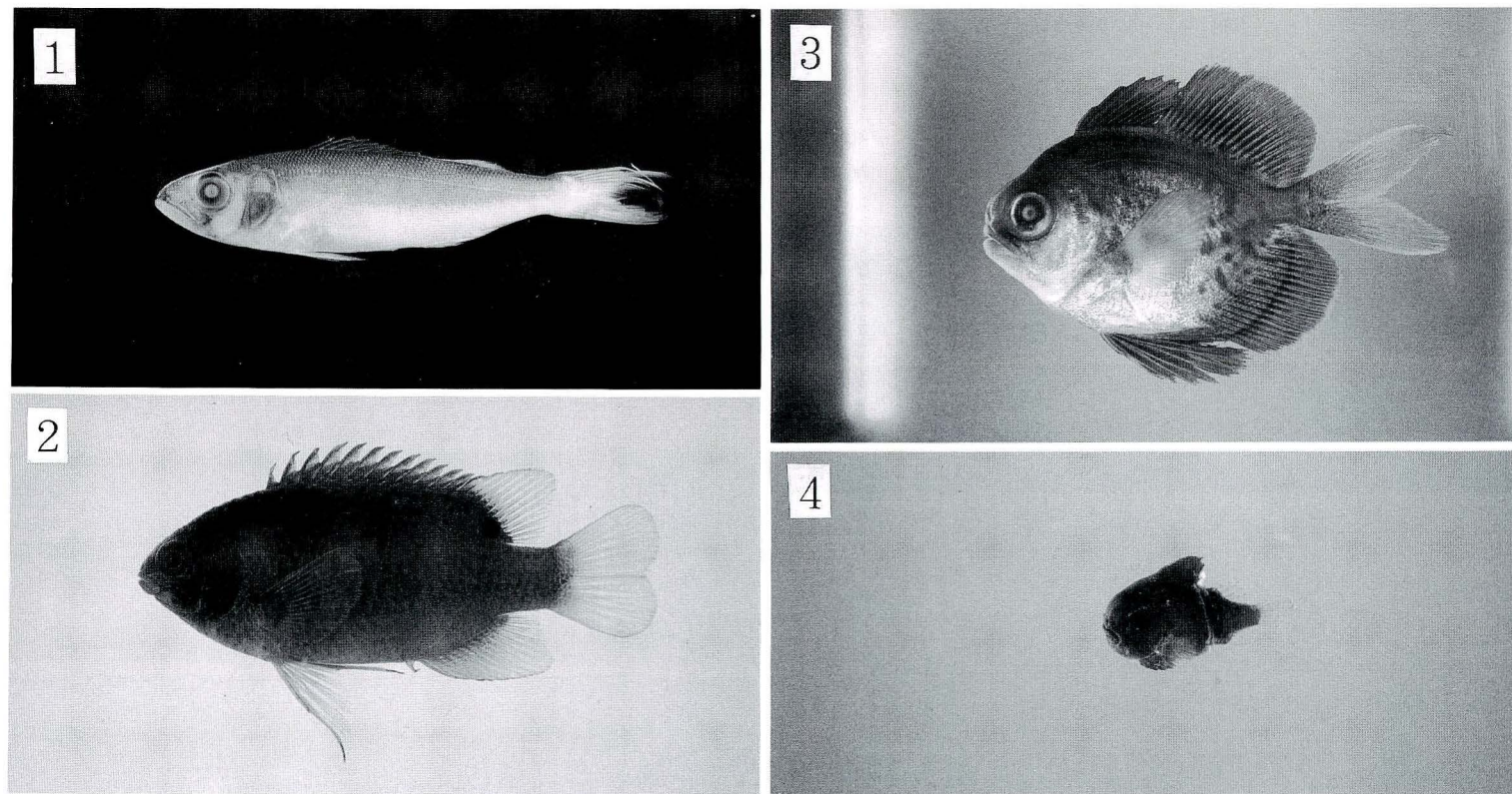


図3. 1 オオグチイシチビキ *Aphareus rutilans*, YCM-P 27121, 体長84.7mm.
 2 ルリスズメダイ *Chrysiptera cyanea*, YCM-P 27231, 体長46.6mm.
 3 クラゲウオ *Psenes arafurensis*, 全長78.0mm.
 4 ダンゴウオ *Lethotremus awae*, 全長15.0mm.

て得られた。(1, 78.0mmTL) 図3-3。

標本個体は灯火採集によって採集されたが、この時期に採集地周辺にはミズクラゲ、アマクサクラゲの来遊があり、それに付随してきたと考えられる。本種の関東沿岸からの採集報告は少なく、小網代からの1例が知られている(京急油壺マリンパーク, 山田和彦氏私信)。

363 ダンゴウオ *Lethotremus awae*

1992年 6月25日, 水産試験場地先の灯火採集によって得られた。(1, 15.0mmTL) 図3-4。

益田他(1988)によると, 本種の太平洋岸の分布は静岡県下田から千葉県小湊とあるが, 前出の山田氏によると岩手県沿岸でも本種の生息が確認されている。

謝 辞

本報をまとめるに当たり有益な示唆をいただいた伊豆海洋アカデミーの瀬能 宏博士, グローバルスポーツクラブの西谷香奈氏, 京急油壺マリンパークの山田和彦氏に謝意を表します。またスズメダイの同定に当たり資料を提供下さった横須賀市自然博物館の林 公義氏に感謝します。

文 献

DAWSON, C. E., F. YASUDA and C. IMAI, 1979. Elong-

ate dermal appendages in species of *Yozia* (Syngnathidae) with remarks on *Trachyrhamphus*. *Japan J. of Ichthy.*, (25):244-250.

GERALD R. ALLEN, 1975. Damselfishes of the South Seas. 238pp. T.F.H. Publications Inc., New Jersey.

工藤孝浩・岡部 久, 1991. 三浦半島南西部沿岸域の魚類. 神奈川自然誌資料, (12):29-37.

工藤孝浩・岡部 久・山田和彦, 1992. 三浦半島南西部沿岸域の魚類-II. 神奈川自然誌資料, (13):39-44.

益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編, 1988. 解説, 日本産魚類大図鑑(第2版) xx+448pp., 東海大学出版会, 東京.

永澤 亨, 1990. 日本海から初記録のイトヒキヨウジ. 日本海区水産研究所研究報告, (40):221-225.

瀬能 宏・島田和彦, 1991. ムスジコシウダイおよびその近縁種の斑紋変化と分類. 伊豆海洋公園通信, 2(12):2-6.

山田和彦, 1991. 神奈川県三浦魚市場に水揚げされた魚類II. 神奈川自然誌資料, (12):21-28.

(岡部 久: 神奈川県水産試験場, 工藤孝浩: 神奈川県水産課)